すみなわし

No. 3

1959.3

川内昆虫研究会

もくじ

高隈の麓にて ―――――― 佐竹 新 …… 1

未記録への挑戦 ―――――― 田村 勝 …… 4

昆虫採集のもつ役割 ―――――― 篠崎真七 …… 9

鱗翅雑記 ―――――― 柴尾蝶太郎 …… 10

ウスイロコノマについて ―――――― 坂口邦彦 …… 11

標本贈與のこと ―――――― 佐竹 新 …… 12

鹿児島下及び川内市薩摩郡に於ける
記録予想蝶73種 ―――――― 田村 勝 …… 13

あとがき

高隈の麓にて

佐竹　新

いま私の家の窓からは　1,182米の標高を誇る高隈御岳が朝に夕に多彩な光と影の姿態を見せてそびえているのが望まれる。垂水港で船を降りて新任地に向う私の眼を真先に激しくとらえたのは　この山々の峻厳な連りであったが、こうして「すみながし」へのペンをとっていると、私のまなうらにひろがるものは、昼尚暗くヤマビワの生い茂った可愛山陵の森や、ムラサキツバメの飛び交っていた清水岡の明るい樹間や、そして幾十とも知れぬイシガキチョウシの群れていた紫尾山間のまぶしい林道、密生したアカガシの梢をキラキラと輝きながら飛んでいたキリシマシジミ……等、川内在任2年有半のき月に　私をめぐっていた　色彩ゆたかな自然界の風景である。それはまさしく　戦後10年　眠り続けていた私の蝶たちへの欲求をゆさぶり覚ましてくれた沃野であった。そこで私は、理科教育へのさかんな意慾に　りんりと流されていた教師たちの熱い汗に触れネット振る少年少女の幾多の眼の中に　自然界探求へのらんらんたる輝きを見ることができた。私が去った川内市でことし第二回の昆虫展が盛大に開幕したとの記事を新聞で読みながら、私は胸の中が熱くなるのを押えることができなかった。川内駅での別れの雨の朝、多くの見送りの人々から離れて　私を見送ってくれていた永田氏の淋しげな顔を思い浮べて　私はふと涙ぐみそうになったりする。……その永田氏の後に数多い研究会の人々の温いまなざしがあり、そしてその周囲に、私に向けて降るように注がれた川内の人々の友情の海がひろがっている。

鹿屋に着任してからまもなく　北中生の里田君から昆虫展の状況を伝える書信が届いた。「坂口君の作品は　とても美しくよい作品でした。写真に写しておじさんに見てもらいたい位でした。他の人の作品もよくできていました」とあり、鹿屋附近の採集地をたずねたあと「できるものなら　鹿屋に採集にゆきたいです」と結んであった。私は川内離任にあたり　角園氏らに「川内を去っても私は研究会顧問としてとどまりたい」と懇請し　快諾を得ることができたし、いつでも川内昆虫研究会のための大隅採集基地となることを約束しておきたい。そのためにも私は大隅半島の昆虫相をできるだけ広く知っておこうと考えている。過日、鹿屋農高教諭の福田晴夫氏（"鹿児島県の蝶"著者）をお

たずねしたところ、タイワンツバメシジミの幼虫を飼育しておられ、食草シバハギを栽培しているのを見せてもらったが、こうした篤学の士が鹿屋におられることが一層私をはげましていてくれるようである。私の幼年時代からの蝶友伊藤満男君も鹿屋警察署にいるし、このほか2～3の熱心な研究家が在住している由で「ひとつ鹿屋でグループをつくりましょうか」というようなことで　福田氏との初会合はひどく楽しいものとなった。伊藤君とはその後9月23日の新聞休日に御岳山麓にゆき、まこと20年ぶりに共にネットを振ったわけだが、山麓一帯でタイワンツバメを多数採集したほか、標高250米位のところではヤクシマルリシジミ♂2、♀1を捕獲することができた。私はこのことで折末川内から採集に来られた人々が、あまり苦労せずにヤクルリを得ることができるとの確信を得た。福田氏も「山頂にはいつもヤクルリがいるし、山間にはキリシマミドリも多い。このほかギンイチモンジセセリ、クロシジミの記録もある。」といっておられるから鹿屋からバスで30分そこそこで山麓につけるこの山はとくに川内の会員たちにおすすめできるのではないかと思う。もっとも山頂への道程はかなりきびしく時間もかかる　ということではあるが……。

私は仕事柄自分の管内の外にでることは許され難い立場にあり、再び川内周辺でネットを振ることは極度にむつかしいことで、その点では心淋しく思っている。鹿屋に来てまもなく私の敬慕してしてやまない京都の杉谷岩彦先生（註……スギタニルリシジミなどの発見者。元京大講師　70才　我国蝶学界の大先輩で現在病臥中）からお便りをいただいたがその中に「北鮮から逃れられた時のように、その地の蝶に思い残りのないようお暇の折には御在勤の地の蝶はお採りになっておかれますよう」との御懇篤なお言葉があった。まこと私にとって　かの遠い北鮮の地で再びネットを振ることが不可能なように、川内で蝶を追うことは今やほとんど不可能に近い。私は今年（S.33）2月の雑誌"新昆虫"に少年たちへの呼びかけとして「君たちが再び採れなくなるかも知れぬ日のために、君たちは　きょうの日　蝶を追うがいい」と書いたが、思えば去る7月中旬、寺園川内署長の御好意で各社の人々と共に紫尾に登り、分部氏（朝日新聞）とともに9合目附近でアカガシの大群生林を発見　はじめてキリシマミドリを得た喜びに「ここをテラゾノ林と命名しよう」と語り合ったことども、今はもう再びと帰らぬ日の　はるかな想い出となってしまった……。

川内を去らねばならなくなった日の直前、吉見学校教育課長(市教委)が見えられ、引越荷の散乱した部屋で、私は身に余る市教委からの感謝状と記念品をいただいた。川内昆虫研究会の発展は、もとより私のみの努力の結晶であろうはずがない。額入りの感謝状を手にして、私は、むしろ私の怠慢から会への盡力の足りなかったことが今さらのようにくやまれてならなかった。

いま私の家の八畳の間にこの感謝状を掲げ、日毎私はわが心に鞭打っているが、窓をあければ高隈の山々が緑深くそびえたち、かつての日、太平橋の上から はるかに見えた 紫尾連山が 私に生きることの喜びをささやきかけたように、所をかえて大隅に住む今の私に こんどは高隈の山々が同じ喜びを 歌いかけてくれるかのようである。

私は 川内の空へ向けて こう呼びかける。

----友よ、早くこい。そして ともに高隈の麓にネットを振ろう！ (1958. X. 1)

——筆者、毎日新聞鹿屋通信部主任、川内昆虫研究会顧問——

1958年の歩みをふりかえって

・第2回北薩昆虫標本展覧会は 自9月5日至9月8日の4日間、毎日新聞社、教職員組合、等の御後援を得てわが川内昆虫研究会、北薩教育事務所、川内市教育委員会、共催で、川内市向田町富士屋デパートに於て開催。

出品者 小学校117名 中学校142名の多数に上り、盛会の中にその幕を閉じることができて 只 感激で胸は一ぱい。出品者の中には遠く出水郡からも歩を運んで戴いた方もあり感謝に堪えない。特に標本の中には紫尾のキリシマミドリが光彩をそえてくれたことは印象深く忘れられない。尚、いろいろと御指導を賜った県同好会の竹村、肥後、の両先生にあらためて謝意を述べる次第です。鹿児島大学農学部長の澁谷先生もわざわざ御いでをいただきまして 誠に有難うございました。会員一同心から感謝申し上げておりました。----------

・毎月の採集会、予定通り進みました。御迷惑をおかけいたした各学校の先生方に厚く御礼を申し上げます。(向園)

＜架空座談会＞…

未記録への挑戦

田村　勝

○場所……市内A中学校生物教室
○日時……昭和33年9月5日
○出席者
　司会者……久松先生
　生　徒……石垣蝶児
　　・林みどり　・大村咲男
　　・杉谷ルリ子

久松
いよいよ"すみながし"も第3号を発刊の運びとなりましたが、今回から皆さんに色々の昆虫に関する話し合いをして頂く事になりました。皆さんは夫々研究会の中心となる人々ですから思った事はどしどし発言して大いに知識の交換をして下さい。今日のテーマは"未記録への挑戦"と言う積極的なものですから今に採集して新分布地を開くぞと思った蝶について発表して下さい。

石垣……では先陣を承ってアゲハチョウ科のギフチョウとウスバシロチョウについて僕は採集できるかも知れないという期待を持っているのですが、

……実に優雅なエレガントな蝶だな…（笑声）…

石垣　西方共九州では採集されていないのですが分布から考えて見るとギフチョウは中国地方の低山地帯で採集されウスバシロチョウも四国に亜種が発生分布しておりますから一概に否定し去る事はできないと思うのです。

久松　まあ、常識から考えると九州から……特に鹿児島県下での採集は不可能にも思われるのですが、実際の霧島や紫尾の条件から考えるとむしろ発生しないのが不思議のように思われる。更に大ていの人がキリシマミドリやサカハチやイシガキ蝶をねらって7月下旬頃に行くのだがギフチョウは3月下旬から5月上旬頃ウスバシロチョウが5月から6月頃が採集期の為採集されないとも考えられるわけだ。

杉谷　私は何かの本でウスバシロチョウは氷河時代の遺物だと書いてあるのを見たのですがどんな事でしょうか

石垣　それはね、氷河時代のチョウの化石が発見されてそれがウスバシロチョウに似ているのだ。

久松　その通り。この蝶の仲間には展覧会に出品された

佐竹先生の標本にもあったウスバキチョウ(北海道大雪山)やヒメウスバシロチョウ(北海道)があり氷河時代の遺物としては他にやはり北海道の大雪山特産のアサヒヒョウモンがあるね。

林　想像以上に美しいのでびっくりしました。

久松　図鑑で見てもよくわかりませんが実物を見てビニールのように透明な表面に敷きつめた鱗粉が実に上品でしたね。その近くに朝鮮で採集されたアカボシウスバシロチョウとすすアカボシウスバシロチョウがあったのを覚えていますか。あれは北鮮の白頭山附近で採集される蝶ですね。全部属名は他のアゲハのようにパピリオではなくてアポロといってホーマーの詩に出てきます。

大村　僕はミヤマカラスアゲハが紫尾山や霧島山だけでなしに川薩の低山地帯にも発生するのではないかと思うんですが、

杉谷　私も大村さんと同じだわ、特に春型。

久松　杉谷さんは何故特別に春型だけにしたのですか？

杉谷　つまり、私が舞鶴にいた時の経験なのですが、近所の低山地帯で春は時々ミヤマカラスの春型が採集されれ不思議な事に夏に夏型が採集されないのです。勿論近郊の青葉山(720)では夏型も春型もとれるのですが平地では春型のみが採集されるのです。つまり寒日本の舞鶴では春型発生の5月には北側の斜面には雪が沢山残っているし未だ花がたくさん咲いていないので春型だけは本能的に花密を求めて低山地帯まで移動しやがて早だけが高い発生地に戻って卵を産むという事が考えられます。

大村　つまり杉谷さんの意見が正しいとすれば5月頃紫尾山や霧島に発生したミヤマカラスの春型が花を求めて低い所まで移動してくるのではあるまいかという意見だな。

杉谷　そうよ。

久松　杉谷さんの考え方には一応賛成でさます。もし杉谷さんの意見が正しいならば大いに期待できるわけだ。大体問題になるアゲハ蝶は今の3種だがカバシタアゲハやシロオビアゲハ等の迷蝶がとれるかも知れないこと、川薩で沢山採集できるミカドアゲハは高知では天然記念物になっていることなど念頭においてよい事だな。

林　スジボソヤマキチョウはどうでしょうか？

石垣　鹿児島県下では未記録だよ。僕の採集経験では多数群飛するという蝶ではなく夫々の蝶が思い出したように山道にポツンポツンと出てくるようだな。但しこれは京都での話で鹿児島県の場合もし採集されても紫尾か霧島で、それこそ稀に採集される位だと思うな。

久松　本州中部に多く北海道では未記録、四国で普通、九州で稀とされているので割に有望な方ではないかと考えます。

杉谷　先生の先ほどのお話でシロオビアゲハ等の迷蝶というのがありましたが、その迷蝶について説明して欲しいと思います。

久松　迷蝶というのは迷える蝶、迷って来た蝶つまり本来の分布地域から未記録の所に迷い出た蝶というわけだ。殆んどが外力の作用で無理に移動するもので迷蝶である限り発生は考えられないね。例えば台風の為に吹き飛ばされて琉球や大島や南方の島々の蝶が上陸した場合、或いは卵、幼虫、蛹、成虫、などが木材の間や苗木に附着したまま運びこまれ幸いに羽化した所とか色々の場合があるわけだな。所がこの迷蝶が♀の場合都合よく食草があり産卵した場合はもう迷蝶ではなく分布した事になるわけだ。メスアカムラサキは私が昭和24年に30頭程採集した事があるしアオタテハモドキを東郷町で1♂タテハモドキは柳元町で1頭国分寺町で2頭夫々完全なものを目撃しておりその個体の新鮮さから考えると台風などで痛められたものではなく鹿児島市城山のメスアカムラサキ川内市内のタテハモドキ2種の発生と分布は確実なものと考えられるね。杉谷さんわかりましたか。

杉谷　はい。私もアオタテハモドキを南薩岳で採集しました。

大村　オオムラサキ‥‥僕の名前みたいですけど‥(笑声)この蝶は県下での記録があるようですが、食草がテングチョウやゴマダラと同じエノキですので川内でも採集できるのではないかと思うのですがどんなものでしょうか？

久松　有望だとはいえますね

林　オオムラサキは国蝶だそうですね

石垣　日本の蝶の代表さ、今日佐竹さんの標本で坂口さんの羽化させたものを見たんだけど成程と思ったな。

久松　佐竹さんのオオムラサキはいわゆる関東型で少し小さい感じだった。関西型の場合はもう少し大きく私の採集した舞鶴のものは♂で開張が120mm♀で150mm程あったように記憶している。北に行く程大きくなるのが普通ですがオオムラサキの場合は反対ですね。

杉谷　私はやはり関西型を京都で採集したのですが飛んでる時はバサバサ音がするのよ。飛び方だってすごくスケールが大きくてとても速いの。

久松　スピードがあるのは当り前でしょうね。同属のものに台湾の埔里紅から霧社の附近で採集されるイナズマチョウというのがありますがそれこそハツとしてネツトを持ち直した時はもう遥か彼方を飛んでいるそうです。

石垣　昨年から話題になっている紫尾のオオイチモンジらしい蝶について先生のお考えは如何ですか？

久松　そうですね。率直に言って疑問ですね。何故ならオオイチモンジなら見誤る事は万に一つもない筈ですからね。確認できなかったという事はオオイチモンジではなかったと言う事とこの場合は云えるのではないかと思います。大体オオイチモンジは誰でもが手に入れたがる高山蝶中の珍品で恐らくその華麗さは全蝶類中の白眉とされている位ですから他の蝶と見誤ったものと思います。若しオオイチモンジなら昆虫学会は必ず沸きますよ。何故なら山梨長野富山が南限で然も1000米から2000米の高地にいて南限以南の記録は全然無いのですからね。

久松　予定の時間が迫りましたのでジャノメヤマダラヤセセリは割愛しましてシジミチョウ科に入りましょう。

林　先ずゼフィルスからですがゼフィルスとは何という意味か知って居られますか

久松　それは私から言いましょう"微風"という程の意味です。戦前九大では昆虫雑誌ゼフィルスを発行していましたよ。

大村　紫尾霧島のキリシマミドリに霧島のヒサマツミドリ更に屋久島にはヤクシマミドリと発生しておりまだまだ同居できるように思われてならんですよ。

久松　珍品としてはヒサマツミドリが紫尾山にいるか、ダイセンシジミ、ウラクロシジミ、ウラキンシジミやフジミドリシジミが果して県下に発生するかどうか一にかかって研究会の皆さんの努力にかかっていると思

うね。先生は必ず発見できると信じています。唯採集上注意しなければならない事は時季を失しない事だと思います。雨の多い6月から8月中旬までの勝負だね。ウラキンシジミというのは実に静かな美しい蝶だ。アカシジミは飛びかたこそゆるやかだがものすごく群生するしミドリシジミやオオミドリ等相当元気だがウラキンシジミの場合は如何にも珍品らしく常に一頭だけしかいないから不思議だ。局地的に多産するかも知れないが先生は浅学で知らない。先生はウラキンを前後20頭程採集したが全部単独のものだな。飛び方は葉の上を水銀の玉がコロコロところがるような工合に、近い葉に近い葉にと飛んでいるね。最後にキリシマミドリシジミの再認識についてですが、キリシマミドリの価値は皆さんの考えている程度と全国に散らばる同好者諸君とでは相当の開きがあると思うのです。本州の人々はそれこそ珍品中の珍品として図を輝かせる種類だということを忘れないで下さい。従って乱獲はいけませんね。従来昆虫界の珍品稀品が心ない採集家に依り何十頭何百頭と採集され中には絶滅してしまったのもある位です。キリシマミドリの記録としては滋賀県の伊吹山、比良山、京都の鞍馬山、和歌山県の那智山、鳥取県の大山、更に高知県の馬路山等がありますが何れも決して多産地ではなく多産地としては霧島と紫尾以外には無い筈です。鳥取県のキマダラルリリバメ、奈良県若草山のルーミスシジミ、高知のミカドアゲハ等は天然記念物として国家の保護を受けています。キリシマミドリシジミはこれらの蝶より以上に人々に喜ばれる蝶ですから乱獲だけは厳につつしんで下さるよう研究会の皆様に座談会の席からではありますが御願い申し上げて終りたいと思います。出席の生徒さんにはどうも御苦労さまでした。

同　有難うございました。

——（筆者、川内昆虫研究会員、　現在 川内市役所 建設課勤務）

訂正　すみながし　Vol. 2　NO2. P4 "Kさんを憶う。"の中で誤りがありましたので訂正致します。

P4. 9行目　ウラギンシジミは　ウラキンシジミは の誤り
P4. 13行目　昆虫界（加藤正英）は　昆虫界（加藤正世）の誤り
P6. 5行目　虫の数虫は　虫の数々の誤り

昆虫採集のもつ役割

篠崎真七

生物学究極の目的は「生命現象」の把握でしょう。そこでその研究過程をよく考えて見ると、生きるための機能(生理)、形態、環境条件、習性、依存関係、さらに種族の繁栄などに関して、生物体はどう構成組織されているかということを観察し、実験して理解することではないでしょうか。こういうことを考えていると、昆虫採集のもつ役割はその基礎になる大切なものであることがわかると思います。もともと生物採集は、生物の形態、種類、分布状態を研究するための資料蒐集が主目的であったかのように思っていますが、現在もこのような考えで採集を行った場合、うやともすれば標本製作のための蒐集だけに重点がおかれ、生命の軽視という非難が生ずるのではないかと思われます。私は生物採集の主目的を多角的点におきたいと思っています。野外観察、飼育、栽培、標本作製、というふうにどの角度にも重点を置きたいと思います。そこで採集を行う場合は次のことがらを常に頭において行いたいものです。

1. 生命を尊重し　愛育の精神を忘れないこと。
2. どんなことを研究したらよいか、どんな方法で研究しようかをはっきりと心に入れておく。
3. 環境としっかり結びつくような採集をする。例えば地図、植物など、即ち場所の研究をすることを心にとめておく。
4. 記録をとり、相互関係まで深めて行く。
5. 正しい採集の方法を用いること。
6. 切手蒐集のようにならないように留意すること。
7. 創意工夫をして常に新鮮な思考が生きていくこと。

以上、考えつくままに述べましたが、これは教育という立場における私の考えであります。

筆者、川内昆虫研究会顧問
川内北中学校理科センター要員

会員を募る

会費不要

市内、小、中、高、校生、及び一般の同好の士よ、ふるって御入会下さい。　連絡は川内北中　向園へ

（随想）　鱗翅雑記

紫尾　蝶太郎

一口に虫屋といっても蝶屋もおれば甲虫屋もいるわけで昆虫学全般にわたって純学問的に研究していらっしゃる先生方はさておいて、私どもに好き嫌いがあるのもやむを得ない事だと思われる。雑誌"新昆虫"の交換欄をみていて蝶の標本交換を希望するものが圧倒的に多いところから推しても、また大枚3,500円也の"世界の蝶"図鑑が発刊されることからみてもどうやら虫屋の世界では全国的に蝶ファン即ち蝶屋さんが多い事になるようだ。かくいう私などもやはり蝶屋の部類であって蝶友がやって来るたびに夜の更けるまで話題といえば蝶のことばかり「よくもまあ、話の種がつきないものですわね」と妻などはただあきれているばかりである。然しその私も一時は蛾にのぼせ上ったことがあった。中学3年の頃で小学校のセメント塀に付着しているオニベニシタバの蛹を幾十となく持帰って自室においていたら　或る日一度にドッと羽化してしまい部屋の中はオニベニシタバの楽園と化し、部屋の掃除に来てくれた姉に「不衛生きわまるわね」とひどくきめつけられたことがある。スズメガの種族などは変に体がなまあたたかく、よく見るとまことに可愛い顔をしているように想われた。もっとも豪勢なのはヤママユガ科のもので、とくにウスタビガ等は懐かしいものに属する。中学校のグランドをめぐっていたポプラの落葉の中に朝の寒さにふるえ乍ら静止しているものを拾い上げ、ホオッと息をかけてやるとやがて次第に元気づき羽ばたいたかと見るやサッと掌から飛び去ってしまう。早朝街灯に静止しているクスサンやシンジュサンガを捕って歩くことも楽しいきわみであった。少年時代を西朝鮮で過したからサツマニシキやシロシタサツマニシキ、アケビコノハ、オナガミズアオ、などが欲しくてたまらなかったが手には入らなかった。然し桜並木の中をヒラヒラと飛んでいるウスバツバメガを見る事は楽しかった。その後日本に帰り、鹿児島県に住むようになって林の中でサツマニシキをはじめて採った時はさすがに感無量であやふく蛾の世界へ立戻りそうであった。オオスカシバやメンガタスズメは今でも欲しいし、ヨナクンサン等は持っていてもよいと思ったりする。もっともこのごろではエビガラスズメが電灯に沢山飛んできて鱗粉をまきちらすので手を焼いているのだけど……。　そこへゆくと蝶の方はまこ

とに文句なしであつて、ここらに蝶屋の数が多い理由が存在しているようである。緑林で発見する時のヒオドシは燃えるように赤いし、ゴマダラの飛翔はまことにさわやかである。西朝鮮の草原にはホソオチョウの大群がフワフワと舞いまじり、飛んでいるのを手でもとれるほどの平和さであつた。ナガサキアゲハの早やモンキアゲハの飛翔は息をのむような壮観だし、とくにイシガキチョウの滑翔と羽ばたきは男性的で南国らしい情緒をたたえている反面、葉や花に止る時は、いちはやく身をかくし その姿態は乙女のはじらいをさえ想い出させる。山深く白い陽光の揺れる真夏の樹上をとぶキリシマミドリシジミなどは、まずは蝶のデラックスであり、ことにネットに入ってから金緑と銀とがきらめいて動くのは美の極致ともいえる。森に棲む美しい妖精……とはまことにゼフィルスそのものを言い得て妙というべきだろう。 セセリチョウは一般にあまり好まれないようだが、アオバセセリが葉に静止している姿はなかなか美しいし、クロセセリが白紋もあざやかに低樹林をさまようているのも捨てがたい味があると思っている。はなやかな蝶たちの影が消えた山間の道ばたを時折止ったり飛んだりしているキマダラセセリを見ていると そこはかとない秋の訪れを感じて不思議な親しみをさえ抱いたりするのである。北の国の蝶には白雪がいがいたる冬を思わせる味わいがあり、南の国の蝶には燃えさかる太陽とにおうばかりの緑林に夢を通わせる情緒がある。書きはじめれば鱗翅雑記のペンはとてもとどまりそうにないのでここらでペンをおこう。

○□○ ウスイロコノマについて

坂口 邦彦

川内市及び近郊に於ける本種の分布について

○高城村麓　　クロコノマの多い所なので可能性十分な場所ですがどうしても採集されないままになっていましたが、1958年9月19日、低地で夏型を逃がし残念、然し頂上に向う途中の竹ヤブの横で秋型(左上羽破損)1♂がとれました。

○花木部落　　場所としては全くうそのような所です。傍に数本の竹がありますのでそこが発生地と考えられます。これも1958年秋型1♀の完全なものが会員の重田君(北中2年)によって採集されました。

○柳山　　ここは前にもお知らせしたように市内で

一番の発生地です。残念乍ら今のところ夏型のみで秋型の採集は聞かれません。

○神亀山　ここは僕が北中1年の時、夕方クモの巣にかかっているのを逃がしてやったような記憶を持っている程度です。

（北中3年生。　川内昆虫研究会員）

標本贈與のこと

佐竹　新

われわれ会員たちも最近は雑誌等を通じて標本の交換をさかんにおこなうようになった事は喜ばしい事である。然し交換ないし贈与に当っては　特に①こちらから送る標本はとくに完全品を選び、採集年月日ないし羽化年月日、採集地ないし飼育場所、及び和名は必ずつけること。②蝶の場合は破損を避けるため包装は固い紙箱を用い、三角紙は二重ないし三重にし綿を上下につめること。要すればナフタリンを入れることはよいがこの場合は微粒粉にせねばならぬ。③標本は極力ぎゅう合せて入れる。という点に気をつけたいものである。往々にして不良品を送ったり、先方からは送ってもらってもこちらからは送らぬ　というような例が他県で見られるとも聞いているが、いやしくも川内の会員は　そのような事は絶対にないよう気をつけたい。又先方から品が届いたら時を移さず到着の報せを発し丁重に礼を述べるべきものである。私自身ニミの方から多くの貴重な蝶標本の贈与を受けているが　それらはいずれも一点の非のうちどころのない完全品であり、しかも珍種といわれるものを快く送ってくださっているのには全く頭が下る。昆虫につながるものとして　こうした態度だけは失いたくないものだとつくづく思う。　尚、東京の藤岡知夫氏の御好意で岩手県産の珍蝶チョウセンアカシジミぎゅう各1（飼育品）の贈与を受けた。機会があったら来鹿され見ていただきたい。又これは贈与品ではないが、鹿屋市の伊藤満男君が北満の捕虜時代採集　持ち帰った蝶の中に、シロモンコムラサキ、カバイロゴマダラ、ヒメキイロミスジ、などがある。日本では標本を見ることもむつかしいものなので　来鹿の機に見ておかれるようおすすめする。

（筆者、毎日新聞鹿屋通信部主任　川内昆虫研究会顧問）

鹿児島県下及び川内市薩摩郡に於ける記録予想蝶73種

田村勝

〔註 I〕
本……本州
四……四国
琉……琉球
北……北海道
九……九州
台……台湾

〔註 II〕
× 県下に於て記録されている蝶
※ 記録は難かしいが不可能と断定できないもの
○ やや記録の可能性あるもの
◎ 大いに記録の可能性あるもの
△ 発生分布共に確信あるもの

科	和名	分布		記録予想地		備考
アゲハチョウ科	ギフチョウ	本		紫尾、霧島	※	
	ウスバシロチョウ	北本四		紫尾、霧島	○	
	ミヤマカラスアゲハ	北本四九	×	川薩低山地帯	◎	春型
	シロオビアゲハ	琉奄大台	×	県下?	(迷)	
シロチョウ科	スジボソヤマキチョウ	本四九		紫尾、霧島	◎	但し稀
	ウスキシロチョウ	琉	×	県下?	(迷)	
	メスジロキチョウ	琉、台	×	県下?	(迷)	
	ウラナミシロチョウ	奄美琉台		県下?	(迷)	
	タイワンモンシロチョウ	奄美琉台		県下?	(迷)	
	リマベニチョウ	九琉台	×	川薩?	○	珍品
マダラチョウ科	スジグロカバマダラ	奄美琉台	×	県下?	(迷)	
	カバマダラ	仝上	×	県下?	(迷)	
	コモンアサギマダラ	琉、台	×	県下?	(迷)	
	ウスコモンアサギマダラ	仝上	×	県下?	(迷)	
	リュウキュウアサギマダラ	奄美琉台	×	県下?	(迷)	
	オオゴマダラ	仝上		県下?	(迷)	
ジャノメチョウ科	ジャノメチョウ	北本四九	×	川薩低山帯	△	
	ヒカゲチョウ	仝上	×	川薩低山帯	△	
	クロヒカゲモドキ	仝上	×	川薩低山帯	○	九州は稀 局地発生
	ヒメキマダラヒカゲ	仝上		紫尾 霧島	◎	
	キマダラモドキ	仝上		仝 仝	◎	
タテハチョウ科	オオムラサキ	北本四九	×	川薩低山帯	◎	九州は朝鮮系
	イワサキチョウ	琉	×	県下?	(迷)	
	アカボシゴマダラ	琉、台	×	県下?	(迷)	
	アサマイチモンジ	本州特産		紫尾、霧島	○	九州では数頭を記録
	ホシミスジ	本四九		川薩平地低山帯	○	寡産、発生局限
	サカハチチョウ	北本四九	×	川薩低山帯	△	
	オオミスジ	北本四		霧島、紫尾	○	北海道四国に稀 近畿 九州は未記録
	シータテハ	北本四九		仝 仝	○	
	ヒオドシチョウ	仝上	×	川薩全域	△	
	ウスイロヒョウモンモドキ	中国山陽		紫尾 霧島	○	珍品
	アオタテハモドキ	奄美琉台	×	川薩全域	△	

科	和名	分布		記録予想地		備考
	タテハモドキ	奄美 琉球 台	×	川薩全域	△	
	メスアカムラサキ	全上	×	川薩全域	◎	
シジミチョウ科	アカシジミ	北 本 四 九		紫尾 霧島	○	
	ウラキンシジミ	北 本 四 九		紫尾 霧島	○	珍品
	ウラゴマダラシジミ	北 本 四 九		川薩低山地帯	○	九州は極めて稀
	ミズイロオナガシジミ	北 本 四 九	×	川薩低山帯	◎	
	ウスイロオナガシジミ	北 本 九	×	霧島 紫尾	◎	高地性
	ダイセンシジミ	北 本		同上	○	(珍品)稀
	ウラクロシジミ	本 四 九			○	九州は祖母山の記録のみ
	ミドリシジミ	北 本 四 九		全上	△	
	メスアカミドリシジミ	北 本 四 九	×	紫尾 霧島	△	
	アイノミドリシジミ	北 本 四 九	×	全上	◎	
	オオミドリシジミ	北 本 四 九		全上	◎	
	ヒサマツミドリシジミ	関西 四 九		紫尾	△	(珍品) 九州は霧島山
	ジョウザンミドリシジミ	本 北		紫尾 霧島	○	四.九は未記録
	エゾミドリシジミ	北 本 四 九		全上	◎	
	ハヤシミドリシジミ	北 本 四 九	×?	全上	◎	
	フチミドリシジミ	本 四 九 北	×?	全上		(珍品)
	カラスシジミ	本 北 九	×	全上	△	九州は宮崎 四国は未記録
	ミヤマカラスシジミ	北 本 四 九		全上	○	(珍品)
	ルーミスシジミ	本 四 九	×	川薩低山帯	△	天然記念物(奈良)
	ヒメシジミ	北 本 四 九		霧島 紫尾		九州では山地性
	ミヤマシジミ	本 四		全上	○	北.九は未記録
	オオルリシジミ	中部 東北 九州		全上	◎	阿蘇久住に産す
	ゴマシジミ	道 千島以外の地		県下低山地帯	○	局地的分布種
	ヤクシマルリシジミ	琉球 屋久	×	県下平地山地帯	◎	
	イワカワシジミ	全上	×	全上	◎	
	タッパンルリシジミ	全上 台	×	全上	△	
	コツバメ	北 本 四 九		全上 (川薩)	△	
	ゴイシシジミ	北 本 四 九	×	県下全域		
	キマダラルリツバメ	鳥取 京都 滋賀		川薩平地 山地	○	局地発生 天然記念物(鳥取)
	トラフシジミ	北 本 四 九	×	川薩低山地帯	◎	
	スギタニルリシジミ	全国各地		川薩平地 山地	○	
	クロツバメシジミ	本 四 九		川薩 山地帯		九州は耶馬溪
	アマミウラナミシジミ	琉球 奄美	×	川薩全域	◎	
セセリチョウ科	ミヤマセセリ	北 本 四 九	×	川薩全域	△	道 千島 中国は稀
	チャマダラセセリ	本 四		川薩?	○	四国南岸多産
	ギンイチモンジセセリ	北 本 四 九		全上	○	九州未記録
	スジグロチャバネセセリ	北 本 四 九		川薩低山帯	◎	
	ヘリグロチャバネセセリ	本 四 九		霧島 紫尾	△	寡産種
	コキマダラセセリ	北 本		全上	○	四国九州未記録

あとがき

発行がおくれてすみません。やっと「すみながし3号」をお手もとにお届けする段になりました。1958年8月顧問の佐竹 新氏が鹿屋に転勤され、続いて10月初旬には副会長の永田幸吉氏が鹿児島市の田上小学校へ転勤と、この会育ての親であったお二人を相ついで失い、運営上の支障も大きく、やっとの思いで歩いて来ました。

本号も1958年の夏発行する予定で仕事を進めて来たのですが、お二人の突然の転出で、加えて私が中学校の卒業学年担任という状態で皆様に申し訳ないと考え乍ら思うに任せず、進路指導の余暇を利用しながら鉄筆を握り、何とかここまでこぎつけました。それだけに粗末なものになってしまいました。然し盛られた内容には深みがあると思います。常に向上への一途をたどる本会の歩みであると信じます。玉稿を早く御送付下さった諸賢に対しては、まことに恐縮に存じますがお許し下さい。

新学年度への豊富は大きく、会の組織も再検討の上 積極的に歩を進めたいと考えます。
いよいよ シーズンとなりました。
会員皆様の御健斗を祈ります。

昭和34年3月25日
編集発行者 角園 榮男
発行所 川内昆虫研究会
川内市宮内町、川内北中学校内